がんばれ!! サラリーマン

顔面神経まひ

ある朝突然、顔の片側がゆがんだまま固まる

高血圧、糖尿病などが引き金に

原因は不明

いつものように朝食を食べていたら、お茶やみそ汁が口元からこぼれてワイシャツを汚してしまう。どうしたことかと鏡を見ると、顔の片側がゆがんだまま固まっている―。顔面神経まひの多くは、このようにある日突然発症することが多い。

「顔面神経まひにかかった人は、その派手な症状から驚き慌てるケースが珍しくない」と語るのは、東急線・自由が丘駅前にある笠井耳鼻咽喉科クリニックの笠井創院長＝写真。特にサラリーマンでは、ストレスに由来するヘルペスが原因となることもある。

顔面神経まひには、ベルまひ、ハント症候群、外傷性顔面神経まひ、聴神経や耳下腺腫瘍などの手術後に起きるまひ、中耳炎性まひなど種類はさまざまだが、全体の六―七割がベルまひ、一―二・五割がハント症候群で占められる。最も多いベルまひは突発性顔面神経まひともよばれ、早い話が原因不明のまひだ。

「顔面神経の栄養血管が何らかの原因で貧血と低酸素状態になり、顔面神経に浮腫ができてまひとなる。高血圧や糖尿病などがベースにあることもあるが、因果関係ははっきりしていない」と笠井院長。一方ではヘルペスウイルスの関与も考えられ、疲労やストレス、カゼや、女性の場合は妊娠なども引き金に。特徴は、突然発症してゆっくりと治っていく点だ。

「ごく軽いまひであれば、特に治療をしなくても自然に治ってしまうこともある」と笠井院長。このタイプのまひで医療機関を訪ねると、聴力やX線検査で腫瘍がないことを確認した上で、ステロイドの内服で経過を見ることが多い。発症後一週間以内に治療スタートなら軽快するという。

対してハント症候群の場合はやや深刻で、こちらは完全にヘルペスが原因。帯状疱疹ウイルスが耳の深部にある顔面神経に感染して発症し、耳の激痛が出現して、それと前後してまひがおきる。抗ウイルス剤やステロイドなどが処方されるが、「ベルまひと比べると治癒率は低くなる」（笠井院長）。

どちらの顔面神経まひも、顔の片側だけが固まって動かなくなるという症状は同じ。

冒頭のように、液体を飲み込もうとすると、まひが起きている側の口元からこぼれ出すのが特徴的な症状だ。「怒ったり笑ったり、激しい表情をすると一目でわかる。また顔面神経の一部が舌に来ているので、味覚障害で気付くこともある」と笠井院長。検査の結果、ハント症候群などの場合は、まれに目を閉じようとすると口が閉じるといった後遺症が残ることもあるので、専門医の指示を仰ごう。

（長田昭二）

液体を飲み込もうとすると口元からこぼれ出す